

週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月7日(水)

《純粋な心でイエス様を伝えましょう》

主の平和

実際に今日の福音(マタイ 10・1-7)は一番面白くない内容ではないかと思います。『十二使徒の名は次の通りである』と言って一人一人の名前を紹介し、その後イエス様は、その弟子達を遣わしながら、「異邦人の所には行くな、サマリア人の村には入ってはいけない。」と仰います。異邦人のところに行かない様にしたのは、他の福音書と違う立場であるのを私達は分かっています。その理由は为什么呢。

マタイは自分が純粋なイスラエルの血統を持っている人だと思っている人でした。そして、民族的な矜持が強かった人でした。ですから彼の立場では、他の福音を書いた人とは違い、いつも自分の民族のために役に立つ、イエス様の御言葉を書こうと努力した人です。実際にイエス様はサマリアの村にもよく入られて、色々と善いことをなさっているのを、他の聖書の箇所を通して皆様もご存知ですよ。しかし今日の福音では、「異邦人の所には行くな、サマリア人の村には入ってはいけない。」と書いてあります。これはイエス様の言葉ではなくマタイの言葉ではないかと思います。とにかく、何故このように書いたのかと考えて見ますと、違う観点で福音的な解釈が出来ると思います。

例えば今年は、私達の太田教会では宣教の年として「一人の人が他の一人に宣教しましょう」と話して来ましたね。それよりも先ず、家族のことを考えて見ましょうという解釈してもいいと思います。家の中が全く福音化されていないのに、他の所で福音を述べ伝えようとする事もおかしい。ですから先ず、自分の家の中からちゃんと整える気持、福音化させようとする心、先ず家の中で祈りの生活が忠実に行っているのかを振り返ってみながら、それがある程度ちゃんと出来て「私の家族は福音的な喜びが溢れていますよ。」と言う人ならどうにか他の所に手を伸ばし、人々を救いの道に導こうとするのが相応しいというのが、マタイの考え方ではないのでしょうか。

しかし、私はちょっと違います。完璧に福音的な家族を持っている信仰的な望ましい家庭は、この世の中でどの位あるのでしょうか。ある意味でマタイのこの考え方は日本の文化に似ています。なぜなら「自分がちゃんと出来ていないのに、何故他の人に生意気に手を伸ばすのか」という考え方を持っている信者さんが、うちの共同体にも結構います。「自分がある程度出来てから福音宣教します。」と言う人が結構います。皆様が認めるかは分からないのですが、私の目にはそのように見えます。

しかし、これは大間違いだと思います。自分が完璧になって他の人にイエス様を伝えようとする事は傲慢です。その言葉自体が悪いです。もっと福音的なことは、もっと正しい福音的な振る舞いは、自分が足りないから、神様に頼りながら手を伸ばすのが福音です。「私は頑張っているのですが、自分も誇らしい所は何もありません。しかし、少なくともあなたの御心分かっています。足りないものですがあなたが伴って下されば、この足りない手によって足りない足によって、誰かが救われたらそれ

は償いになるのではないのでしょうか。」と言う心がもっと望ましい心だと思います。

皆様、どこの家でもどこの家庭でも問題があります。自分の家にもうるさいところが沢山あります。けれども私自身かまわずにこの日本に来て皆様に善い事よく話しているのです。このマタイのような論理で考えれば、私はこの説教台に立てません。しかし、神様は私達にそういうことを気にせずに、もっと強く熱心に“私の御心を人々に広めてほしい”と信じながら働くのです。皆様心配なされないようにお願いします。「私はそういう資格があるかどうか」と思うこと事態が悪魔の誘いです。皆様全員が資格をお持ちです。皆様の、ありのままを愛していらっしゃる神様を信じて下さい。ちょっと足りなくても、他の人には嫌な目で見られるかも知れないけれども、“このイエス様を伝えたい気持は純粹だから私は何とかしよう。”それによって自然に家庭の問題も上手く解決されると私は確信します。それが宣教ではないかと思えます。

さあ、面白い話をします。ある先生が生徒達を連れてピクニックに行きました。弁当屋でお昼の弁当を30個注文しました。そしてその目的地について食事する時間の前に弁当がちゃんと届いているか確認してみたら30個頼んだのに31個あるように思いました。そして気持よくなってこの先生は「弁当をもう一つほしい人は手を上げて」と言いました。そうすると全員の手が上がりました。「ああ、これは駄目だなあ」この1個は食べないほうが良いと思って配り始めたのですが、逆に一個が足りなくなりました。31個が届いたのではなく29個が届いたのです。先生は困って「私が間違えて数えてしまった、1個譲れる子は手を上げて」と言いましたが誰も手を上げなかったのです。それを見て先生は「どうすればいいか」と思っている時に一番後ろにいた小さい子が「私が譲ります」と言って来たのです。先生は「お前は私とお店に行って食べよう」。結局その子供はご馳走を食べることになった訳です。

さあ、皆様は今までの人生の中で、何かあった時に損になるほうでしたか、それともいつも利益を得るほうでしたか。ちょっと曖昧な質問ですよ。今まだ歩んできた人生の中で、いつも私は損にならないように頑張ってきたほうでしょうか。損になっても、これは気持のためにも負けてあげようとするタイプでしたか。皆様をお願いします。若い時は負けないように頑張ってもそれは悪いことではありません。負けないように頑張っても負けるのが人生だからです。

しかし、これからはわざわざ負けて上げるように努力して下さい。これが必要です。夫婦の関係も同じです。若い時は出来るだけ勝とうと頑張ってきたと思います。けれどもこれからは負けて上げるのが真の勝利であることを、何よりも心の平安を保たせることをよく刻んでください。本当に負けて上げるその能力は素晴らしい能力だと思います。それは先ず私達信仰者にとっては、祈りと神様の愛を感じる人だけが可能です。さあ損になりましょう。(笑い) 今笑っている人は損になることをなさっている人でしょう。(笑い)

これからの全てのことを、先ず損になっても“天国に富み積もう”と言う気持で始めましょう。

そうすれば何よりも皆様の心の平安は与えられると私が保証致します。

ありがとうございました。